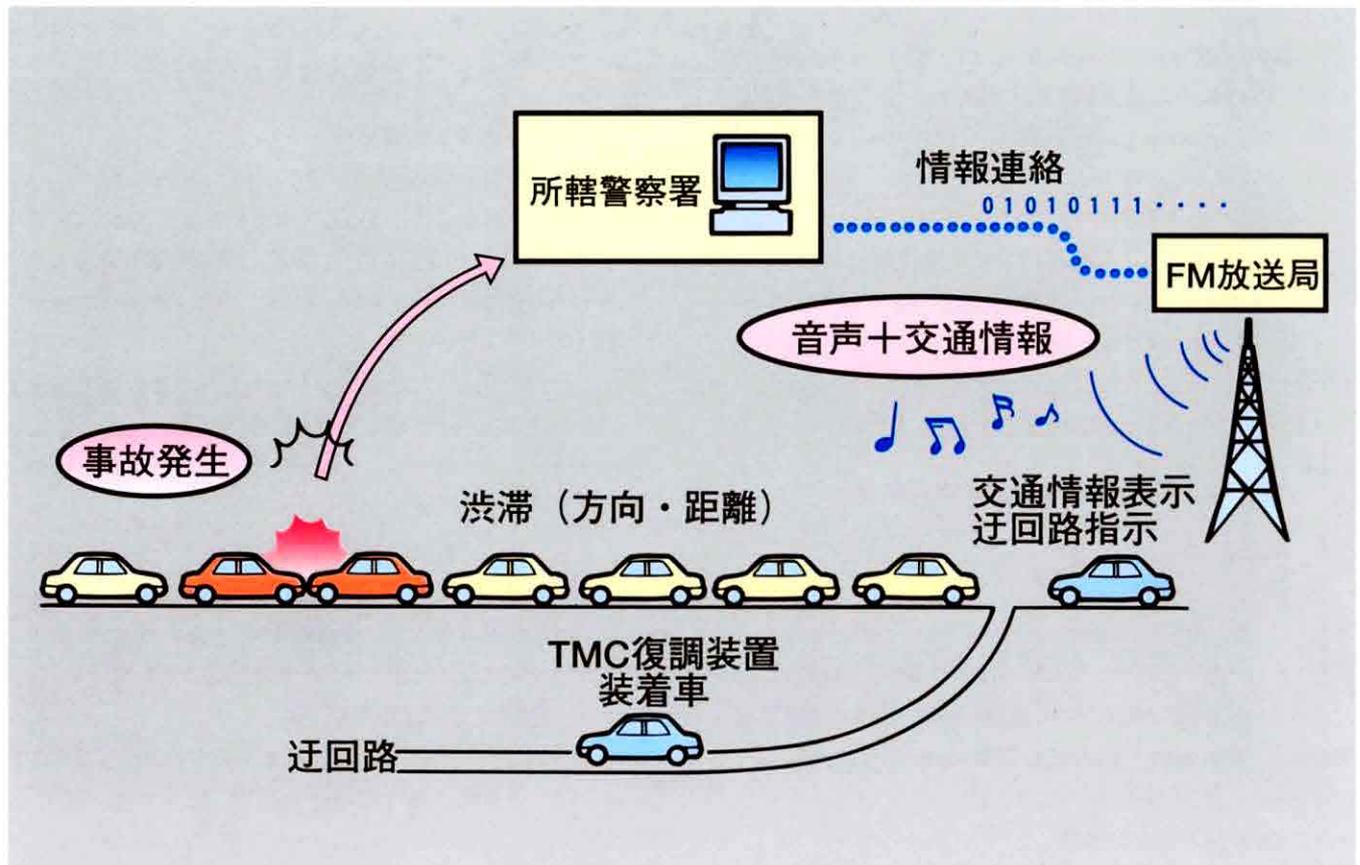


欧州向け交通情報データ復調装置

吉田滋弘*
安ノ井 弘*
船江和仁*



TMCによる交通情報システムの例

各道路では、時々刻々変化する事故・工事・天候・路面状態・行事等の状況として渋滞が起こり得る。FM多重放送を利用したTMC情報を車載機器で表示することにより、ドライバーはこれらの状況を事前を知り、渋滞回避が可能になる。

欧米で開発されたRDS(Radio Data System)は、副搬送波57kHzで、両側帯波搬送波抑圧型振幅変調を用いたFM多重放送の一種である。このRDSで送信されるデータはEBU(European Broadcasting Union)の定義によって17種類のタイプに分けられる。このうちタイプ8Aの方式であるTMC(Traffic Message Channel)は、デジタル情報として常時送信される交通情報である。

TMCによる交通情報は①路面状況・規制・工事・天候等の情報をリアルタイムに入手可能、②音声番組の中断なし、③使用言語の選択可能、④通常のFM局で送信、⑤必用エリアの情報を優先選択等の特長を持つが、カーナビゲシ

ョンシステムの地図上に表示をすることにより、更にその効果を増す。

このたび三菱電機㈱では、このTMCを利用した欧米向け交通情報データ復調装置を開発し、ナビゲーションシステムとの接続を可能にした。これにより、工事・天候・路面状態・行事等の状況、及びそれらによる渋滞の有無等の情報を地図上の記号による表示として入手することができ、さらに迂回路の有無も分かるので、スムーズに渋滞回避ができるようになる。

装置は欧米においてフィールドテストを行い、基本的な性能を満足する結果を得た。